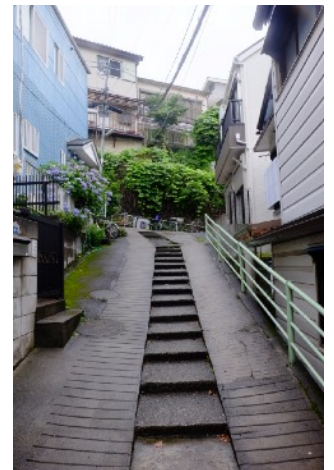


東京都北区における崖線がもたらした都市景観への影響と
その歴史及び社会的価値

都市景観

都市景観とは都市が歴史的、伝統的に培ってきた固有の街並みや景色である。日本の都市政策は、高度経済成長期における都市基盤施設の量的整備から、快適さ、美しさ、個性づくりを目指す質的整備への転換が図られてきた。私が住む北区では1994年に「北区都市景観づくり基本計画」が策定され、2005年日本初の景観に関する総合的な法律「景観法」なども追い風となり、今日に至るまで地域まちづくりの指標の一端を担っている。

私の住む周辺地域には多くの坂があり、不自然な地割や区画、他ではあまり見られない住居様式が点在する。幼少の頃から赤羽台の存在や崖下に沿って電車が走っていることなどは認知していたが、別段不思議には思わず気に留めていなかった。しかし、今こうして改めて街を歩き、ゆっくり見るとこの景色がいかに特殊であるか感じ取れた。東京都北区赤羽～王子間の高低差の多さは、戦後の宅地造成の波に吞まれ再開発を経ても、本来の自然が持つ地形が現代の都市景観に残存していることを確かに浮かび上がらせている。この原因となるのが東京西部から広がる武蔵野台地と東部に広がる低地の境界線となる崖線である。



武蔵野台地と崖線

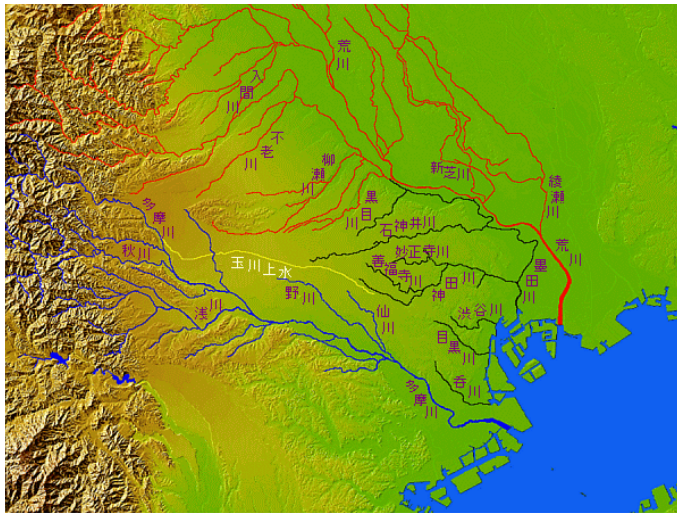


図1 武蔵野台地の河川
カシ米尔3D

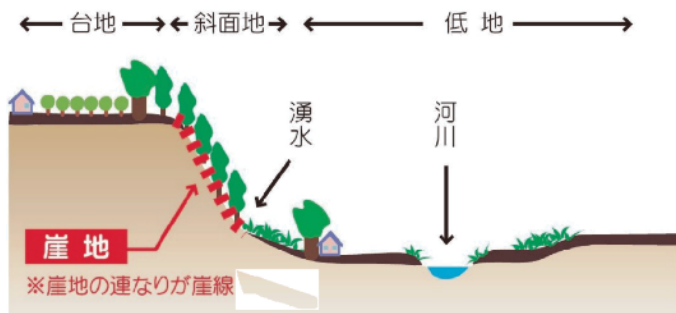


図2 崖線の断面図
崖線の緑を保全するためのガイドライン 2012より



武蔵野台地は関東平野における、荒川と多摩川に挟まれた地域に広がる台地である。奥多摩の山々を削りながら流れ下ってきた多摩川は、青梅を扇頂とした大きな扇状地を形成した。この扇状地が武蔵野台地の基盤となっており、その上に5~15mの関東ローム層が堆積している。関東ローム層は第四紀更新世に諸火山(箱根、富士、赤城、浅間など)から西風に運ばれてきた火山灰が堆積し風化したもの。赤褐色の粘土質であり、乾燥すると微細な粒子になる性質を持つ。つまり、土が十分に湿った状態であれば水が地下へ素早く浸透し、乾燥していると水を土に貯留する。よって武蔵野台地は、その成因から、鉛直浸透性に優れたローム層、その下にきわめて透水係数の大きな砂礫層による帯水層が形成されている。主に砂礫層中に帯水された浅層地下水(伏流水)は窪地や崖線沿いなどの扇状地末端部に湧水などから地表水として流出し、これらを水源とする中小河川が台地面上に発達している。崖線は、その河川などの侵食作用でできた崖地の連なりである。

図3 北区の崖線全体図
北区景観づくり計画より

北区における崖線は、武蔵野台地東端の崖線が北区の中央部を南北に走っており、京浜東北線などの線路が崖線に沿って引かれている。それを境に、桐ヶ丘、赤羽台から十条、飛鳥山を経て田端から上野まで連なる標高20~30mの武蔵野台地と標高10m以下の沖積平野である荒川低地に分けられる。この起伏に富む地形は北側の荒川、新河岸川、隅田川、台地の西側から隅田川へと流れる石神井川によって形成された。

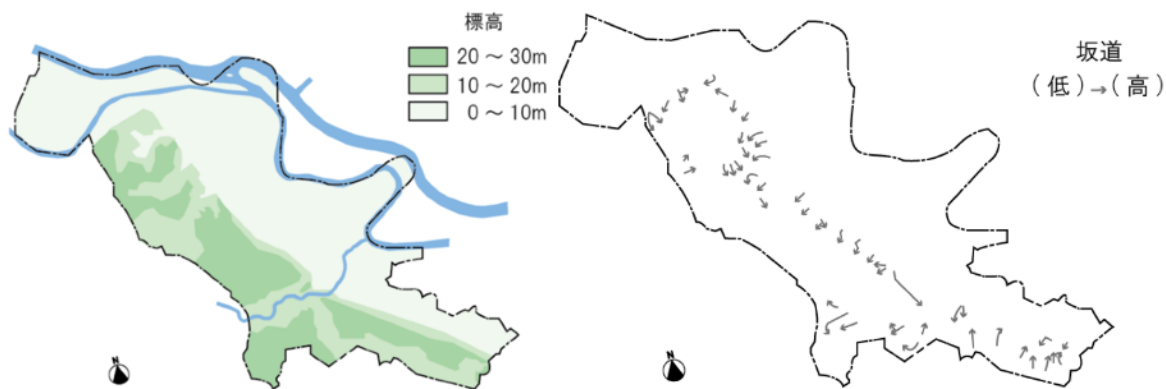


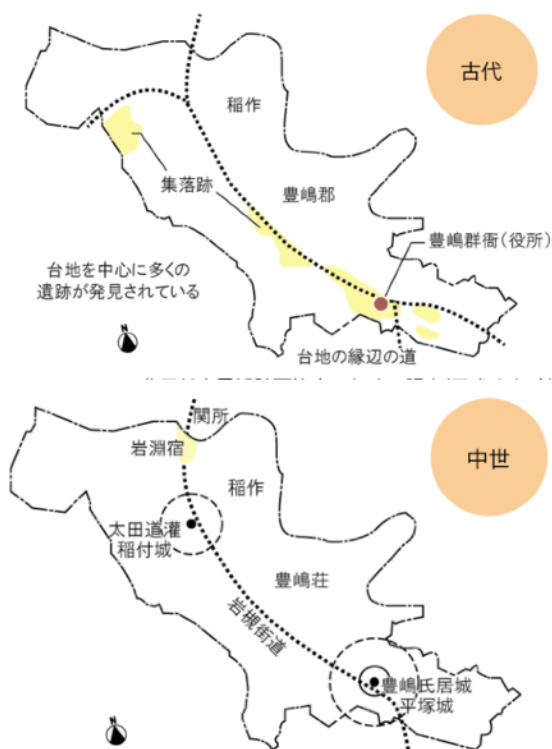
図4(左) 北区の地形 北区都市計画マスタープラン

2010 より

図5(右) 帰宅の坂道

ふるさと北区 (平成元年) 北区教育委員会より

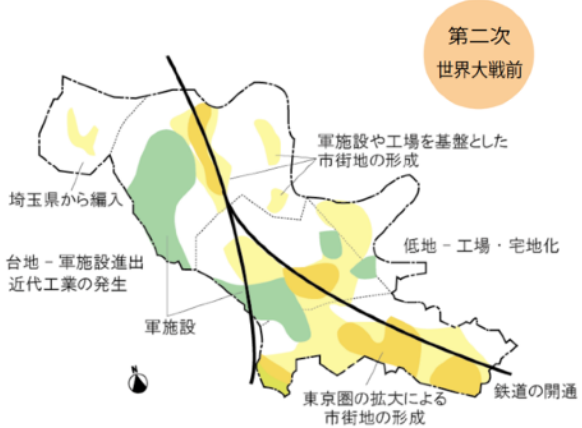
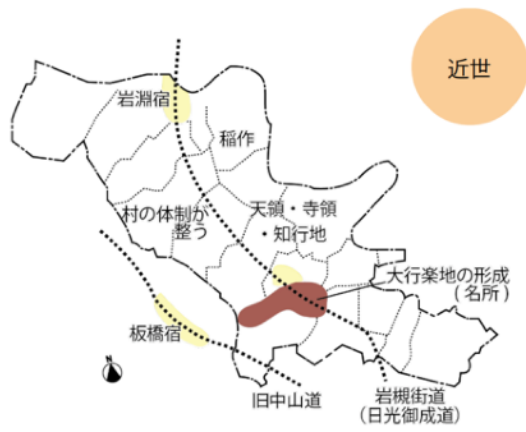
崖線の社会的価値の変遷



北区では、台地や崖線付近を中心に集落跡が発見されている。湧水や河川を農業用水として活用していたと考えられる。台地の周縁には道がひかれ、古代の役所である豊嶋郡衙が設けられた。

中世には岩槻街道沿いに宿場町が形成され、太田道灌による稲付城や豊嶋氏の平塚城が築かれた。荒川付近には関所が設けられ、岩淵宿が形成された。

近世には石神井川周辺に行楽地が形成されたが、台地部分は慢性的な水不足により大半が粗放的な土地利用が行われていた。明治以降には、台地部分の低・末利用地に軍施設が進出し、鉄道が開通した。また、荒川放水路の開削後には、低地部分の開発が本格化し、工場の進出、さらに東京圏の拡大の影響を受けた滝野川地域を中心に、全域で市街化が進んだ。関東大震災後、当



時郊外とされていた北区に同潤会による普通住宅事業が進められ赤羽西、十条仲原に多くの木造住宅が建設され、町としての発展の起爆剤の一端となった。

第二次世界大戦後、台地部分では軍用地が解放され、大規模団地や公共施設等が建設される一方、低地部分では工場の転出と市街化が進み、住工混在の複合市街地が形成された。さらに、昭和60年には、浮間地域に鉄道新駅が誕生したことで市街化が一層加速した。

現在の北区は、ほぼ全域が市街化しており、大規模団地や公園などの再生整備が進められ、幹線道路沿いや駅周辺、工場跡地を中心に大規模集合住宅への土地利用転換が多く見られる。

図6~9(上から順)時代ごとの都市形成過程と土地利用
北区都市景観計画策定のための調査(平成2年度)より

交通

北区は交通網が発達しており、交通利便性が高い地域となっている。上述した通り、崖線に沿って鉄道が区内を縦断しており、滝野川や王子には路面電車の都電荒川線も走っている。道路交通は首都高速王子線や環状8号線、環状7号線、明治通りが区内を横断しており、北本通りや本郷通りが区内を縦断している。歴史的な位置づけのある旧中山道や旧岩槻街道などの道路も残存している。

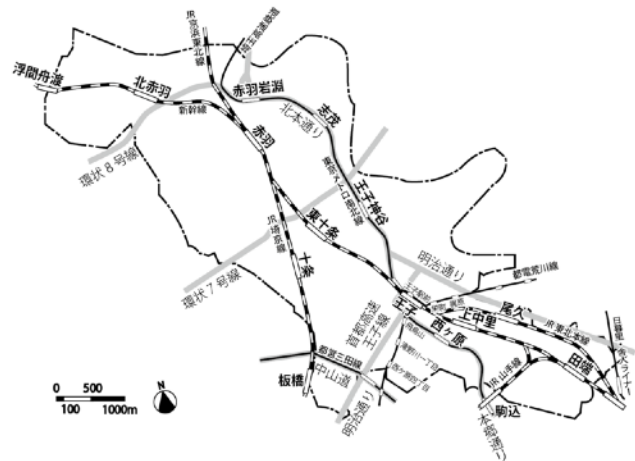


図10 北区の主要交通網
北区景観づくり計画より

崖線上の公共空間事例

かつて崖線上の眺望豊かな場所は権力や権威を象徴するような土地利用をされていたが、その多くは公共空間として姿を変えたり、神聖な空間として残されている。私が実際に歩いた赤羽～王子間の西側を調査対象とし、どのように地域の景観として役割を果たしているか考察する。

図11 赤羽西地域の崖線詳細と主要景観
北区景観づくり計画より

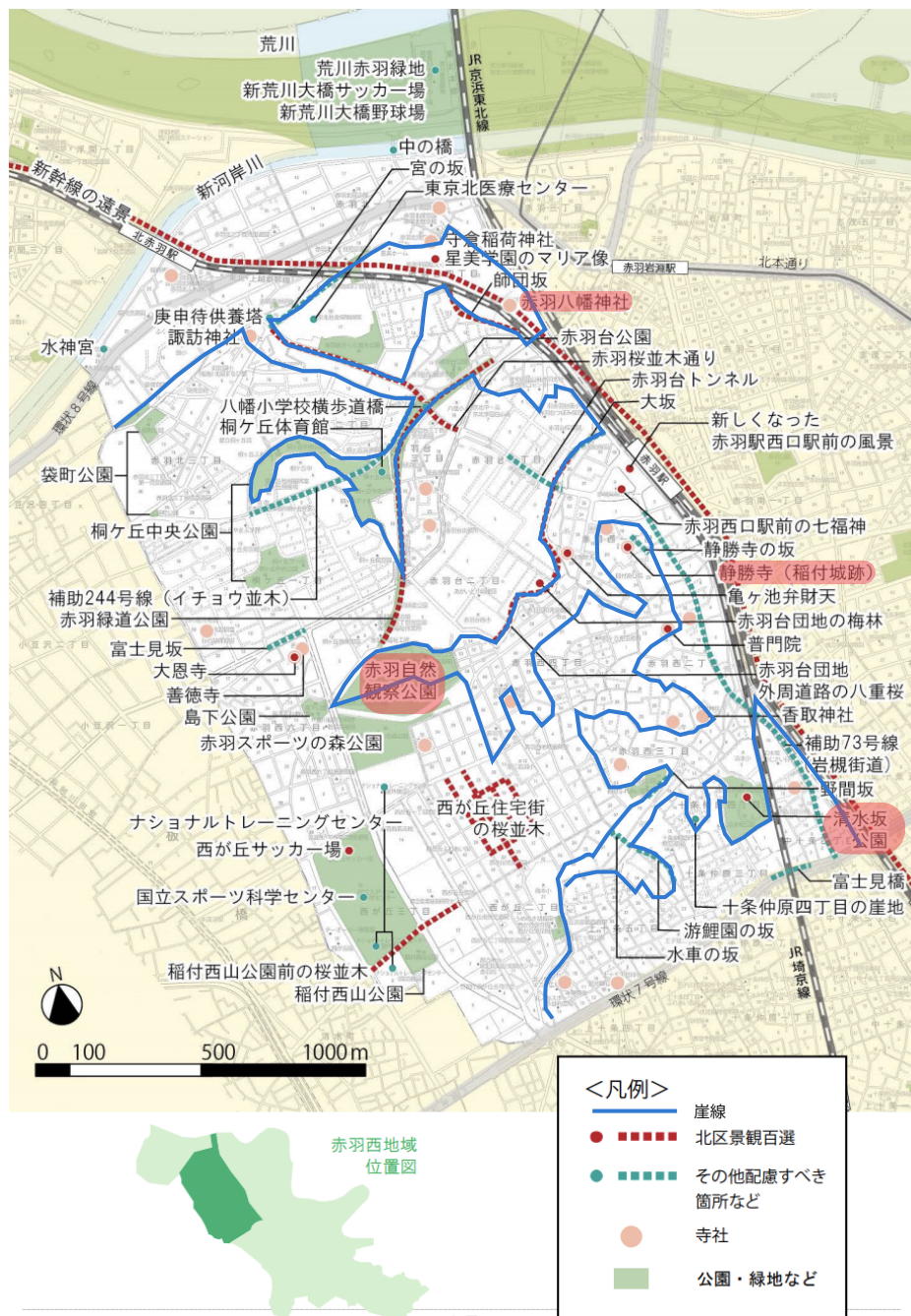
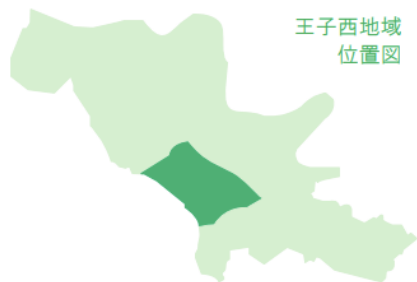
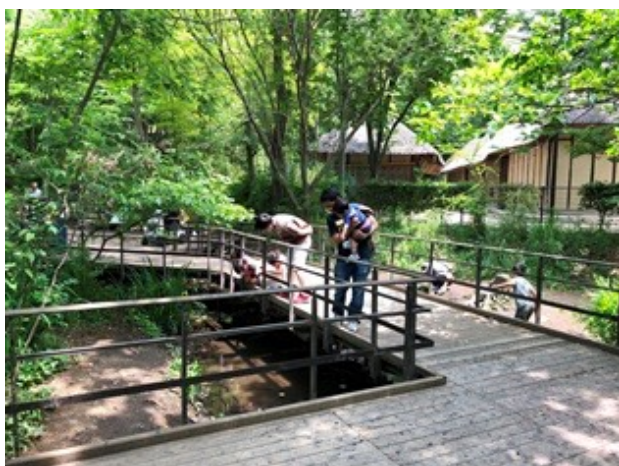


図12 王子西地域の崖線詳細と主要景観
 北区景観づくり計画より



- <凡例>
- 崖線
 - 北区景観百選
 - 北区景観賞
 - その他配慮すべき箇所など
 - 寺社
 - 公園・緑地など

①緑地・公共空間



赤羽自然観察公園：

赤羽自然観察公園は、谷状の地形や湧水を活かして陸上自衛隊十条駐屯地の跡地の一部が整備されて生まれた。自然とのふれあいをテーマとして、保護区域を定めるなどの自然植生を意識した整備により、長期的な自然の回復を図っている。公園は住民参加を踏まえて計画され、植生の維持管理もボランティア団体と協働して行っている。浮間地区にあった旧家を移築復元した古民家もあり、昔の暮らしに触れるなど文化体験も兼ねている。約5,4000㎡の園内には木道がめぐらされており、谷状の地形に囲まれ、湧水を活かした造りになっている。



清水坂公園：

清水坂公園は、高台の斜面を利用し溪流をイメージして整備された流れや、長い滑り台、自然を学ぶことができる自然ふれあい情報館等の設備を擁している。町の景観的役割として埼京線の車窓から当公園を臨むことができ、地域住民でなくとも電車利用者に認知されている。約2,0000㎡の敷地の両端は高低差が多く、公園高台からの見下ろせる眺望は景観資源としても有用である。



飛鳥山公園：

八代将軍徳川吉宗により桜の名所として整備され、庶民の行楽地としてお花見などでにぎわいを見せた。明治6年には日本初の公園の1つに指定されるなど、歴史や文化的な価値も併せ持つ。武蔵野台地東端の崖線緑地の一部であり、北区の行政機能や商業機能が集積する王子駅周辺に貴重な緑地空間を提供する景観資源である。周辺には王子神社や旧古河庭園、石神井川や名主の滝公園など、みどりとうるおいのある景観資源が集中している。

②歴史・伝統施設



赤羽八幡神社：

武蔵野台地の東北端に位置し、標高20mほどの小高い山に鎮座する。延暦3年（784年）に坂上田村麻呂が当地に陣を張り、3柱を勧請したことにより創建された。1971年（昭和46年）に東北・上越新幹線の建設に際して社務所の下にトンネルが掘られ、現在もそこを列車が通過する。赤羽駅周辺の低地からは電車が高架上を走っているため通常姿を確認できないが、唯一敷地がトンネル面に接する八幡神社だけが線路を一望できるため、地域住民にとって大事な景観を保全している。



稲付城跡・静勝寺：

当寺院を含め元々当地一帯は稲付城が存在していた。太田道灌の死後、太田道灌の師雲綱和尚が1504年に城の一角に彼を弔う堂を建立して道灌寺とした事にはじまる。現在は稲付城跡を含め、当寺院一帯は東京都の史跡になっている。武蔵野台地の端、奥州へ向かう街道に面し、水陸交通の要衝として栄えた岩淵宿を臨むこの地は、砦や館を構えるには最適の地であり当時の権力構図が感じられる。



王子稲荷神社：

関東稲荷社の総社と言われ、落語王子の狐で知られる。大晦日に装束稲荷神社から王子稲荷神社へ向かう王子狐の行列は、平成5年から浮世絵の再現ではじめられた祭りである。毎月午の日が縁日で、2月初午の日、二の午、三の午には賑わいを見せる。社務所にて火防（ひぶせ）の凧、守札が出され、「凧市」が行われる。様々な行事が地域文化の継承に役立っている例と言える。



パノラマプール十条台：

かまぼこ状のガラス開閉式ドーム屋根を持つ屋内温水プール。小学校の体育館・プール施設として1991年に建設された。台地の斜面を利用して設計されており、その外観から地域のランドマークとなる景観である。時間帯で一般解放されており、東京都でも稀有な学校開放の例と言える。小学校施設としてだけでなく、周辺住民との共有使用により地域性を高めている。

結果と考察

公共空間としては崖線特有の自然豊かな性質を活かされており、大きな緑地や公園の間にも崖線に沿って細い緑のベルトが繋いでいることが読み取れる。こういった空間は単に物理的な余剰空間ではなく、場の多様性を生み、人々の精神的余裕を育む効果も期待できる。

歴史・伝統的施設は直接的に地域の住民と暮らしに根付いていることが確認できた。神社やお寺であれば、それぞれに伴う祭りや伝統行事が現代でも引き継がれる事もあれば、新たに創出されているものもある。こういった祭りや行事は北区の日常に彩りを添えるだけでなく、地域のコミュニティづくりに重要な役割を果たしている。

これまで挙げてきた河川や崖線緑地、鉄道、道路などは、北区の景観を特徴づけ、骨格となる要素である。またこれに加え公園、緑地などは北区をふちどる構成要素となり、それらの景観が地域の形を浮き彫りにする。これを基に日々の生活空間が構築され「かいわい」を作りあげられている。その土地利用、建築形態、基盤整備状況などが肉付けとなり町としての実態を確立させる。調査結果から崖線など自然的地形は都市計画のみならず、政治、宗教、文化などに多大な影響を及ぼしており、時が経ちその構図が変わっても価値は引き継がれていることが確認できた。その上で成りなった「景観」は単に見た目や眺めの良さを表すだけでなく、生活の営みの深層を反映している。東京都北区における崖線は技術が進み、経済優先とされる現代においても表面的な利便性に染まり切らず今でもその存在を残し続けている。

参考資料

武蔵野台地と野川公園<http://yamanekoforest.sakura.ne.jp/noyamaaruki/musasinodaiti.html>

北区景観づくり計画 2017 東京都北区

崖線の緑を保全するためのガイドライン 2012 東京都都市整備局

武蔵野台地の段丘崖に分布する著名湧水の湧水機構の解明とその保全並びに環境モニターとしての機能の検討 1993 新藤静夫、太田和寿

火山灰台地の武蔵野台地 台地を形成する関東ローム層<https://shakujii-wakimizu.amebaownd.com/posts/723845>

武蔵野台地の下にある砂礫層の正体 扇状地って何だ?! <https://shakujii-wakimizu.amebaownd.com/posts/723839>

崖線湧水群と河川の水環境 2006 山田啓一、保坂正弘、高野佳昭、鈴木啓介
赤羽八幡神社<http://ak8mans.com/>

自得山静勝寺<http://joshoji1486.sakura.ne.jp/about/>

東京 DOWNTOWN STREET 1980's https://blog.goo.ne.jp/kenmatsu_fs/e/451639725f4daa46d9cf96957453df42

北区立十条台小学校 パノラマプール・体育館 <https://www.e-koshino.co.jp/results/factory/03.html>

今昔マップ<http://ktgis.net/kjmapw/kjmapw.html?>

lat=35.750883&lng=139.738991&zoom=15&dataset=tokyo50&age=0&screen=2&scr1tile=r
elief&scr2tile=osm&scr3tile=k_cj4&scr4tile=k_cj4&mapOpacity=0&overGSItile=no&altitu
deOpacity=2

写真引用

<https://parknavi.info/akabaneshizen>

https://www.jalan.net/kankou/spt_13117ah3330041121/

<https://kids.rurubu.jp/article/1718/>

<http://www.ukima.info/meisho/kawai/inatuke/inatukej.htm>

<https://www.odekakeiku.com/entry/oji-fox-parade>

<https://blog.goo.ne.jp/arya2golf/e/f1605c8d9f489fa2a6a3d8d8276cd475>